

4 班定例自然観察会実施報告書(1月12日)

2020年1月13日

山田雄二

■概要：

1. 実施日：2020年1月12日（日）天候は曇り
2. 集合場所：神鉄谷上駅 9時30分
3. タイトル：「枝先の造形と足元のバラを楽しむ」
4. コース：神鉄谷上駅～山田道～神戸市立森林植物園内観察後解散
5. 班構成：
 - 1 班リーダー熊木さん、サブリーダー中村さん
 - 2 班リーダー陽川さん、サブリーダー湯浅さん
 - 3 班リーダー竹上さん、サブリーダー大西さん
 - 4 班リーダー藤原さん、サブリーダー栃尾さん
 - 会員班：辻さんの案内

6. 参加者：

●4 班員 宇野、大西、熊木、竹上、田丸、辻、栃尾、長尾、永田、中村、藤原、山口、湯浅、陽川、山田（敬称略）以上 15 名

●他班会員 上ノ山、大東、荻谷、倉本、小西、澤井、竹中、堂瀬、中島（和）、中島（裕）、根来、濱田、村上（敬称略）以上 13 名 会員総計 28 名 赤字は新会員

●ビジター参加者 28 名（内 12 名はローキング会）

参加者総合計：56 名

参考：自主研修時（2019年12月22日（日））

4 班 15 名、他班 17 名合計 32 名

■詳細：

思えば 1 週間前は定観当日の天気予報降水確率 70% が厳しい現実だった。しかし少しずつ降水確

率が落ち前日の予報ではほとんど雨の心配はなくなり安堵した。当日朝 8 時 45 分に谷上駅前に 4 班員は集合し打ち合わせを行なう。注意事項説明と役割分担を行い定位置にそれぞれつく。今回ローキング会から 12 名の事前参加申し込みがあり 4 班体制で問題ないだろうと思われた。



谷上駅前集合状況

今回のコースは分かりやすいコースではあるが冬期の自然観察であるがゆえに花や実を楽しむ事がほとんどできない。そのためタイトルだけでも「バラ」の一言を入れそれとなく期待感を持たせたかったが出発前の説明で「けっしてバラは咲いていません。」と当然のように弁解する。



山田道入口での説明風景

ローキング会については 12 名やはりまとまっただけのほうが良いだろうという事で竹上さんの班で引き受けていただく。その後順番に班毎に出発。今回熊木さんは今までも数々のインプリを経験している中、初の班リーダーを演じる事となりまた藤

原さんは2回目のインプリ。下見の時も明らかに誰よりも熱心に観察し多くの事を吸収し堂々のリーダー役を演じた。



あて材の説明（熊木さん）

丸山谷入口の各種ロゼット、ノグルミの枝先の実と堅果の付き方、樹皮の特徴、タムシバの花芽の付き方、樹皮の色合いなど複数の観察視点から同定、落ちている枯葉から類推するのも楽しい。



アベマキ樹皮の説明（竹上さん）

よく見るとヤブニッケイの黒っぽい樹皮は滑らかで特徴的だ。イヌザクラ（シロザクラ）の桜特有の樹皮模様と白っぽい色合いも印象に残る。エゴノキの冬芽は副芽をおんぶしている。ホオノキの枝は太く木肌は白っぽい。アオハダもこの山田道沿いは多いが短枝が多いのとこれも白っぽい樹皮が特徴だ。植物園に12時25分~40分の間にすべての班が到着でき食事とトイレ休憩をとり13時10分に再集合。次期定観担当5班のチラシ配布と六

甲山自然観察入門講座の申し込み用紙の配布を行いそれに続き田丸さんから「山田道」の歴史的な説明が行われた。確定的な事は言えないが森林植物園の整備とも関わりがあり古来の山田道は果たしてどのようなルートだったのかはロマンのある話題だ。



藤原さんのインプリ



イスノキ説明（陽川さん）



会員班の説明（辻さん）

山田道の説明終了後午前中の班構成のまま園内の

観察を約1時間30分行い14時30分に本館前で解散とした。



山田道の説明（田丸さん）

■感想：何より雨にならなかったのが一番良かった。ただし、もしもっと最初から良い天気の子報が出ていたら更に参加者は多くなっただろうと思われた。朝の注意事項説明の時に石伝いに川を渡るところは滑りやすいので注意するようにお話したが残念ながら水の中に靴をつけてしまって靴下を濡らしてしまった方があったが大事には至らなかった。また今回班番号うちわを各班に持ってもらう事をすっかり失念しており最後までそのまま通してしまった。もっと参加者が多かったら混乱していたかもしれないと大いに反省している。今回も新しいリーダーが誕生したができるだけ班の多くの方がインプリ及びリーダー役を出来るように今後も新しい方に積極的にリーダー役をお願いしたい。



定観終了後の4班メンバー



植物園ロックガーデンのバイカオウレン